

## 取組事例9

### 避難所における女性専用スペースの開設（福島県）

東日本大震災で発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故により、福島県郡山市の複合コンベンション施設「ビッグパレットふくしま」には、平成23年3月16日から、避難区域の富岡町や川内村から人々が避難してきた。

一時は約2,500人が避難し、県内最大の避難所となったが、ビッグパレットふくしまの建物の被害も大きく、避難者が通路やトイレ周辺にも人があふれるほどの状況の中で、被災から1か月経った時点でも避難所の内部は混乱を極めていた。特に女性たちは、プライバシーが確保されたスペースがなく、着替えや授乳をする場所にも困っていた。

こうした状況を受け、同年4月11日、県庁から避難所運営支援チームの担当者が派遣され、同17日に避難生活を送る女性たちが安心して過ごせる場所として、女性専用スペースが設置された。その後、県庁避難所運営支援チームの依頼を受けた県男女共生センターが運営支援を開始し、さらに同センターから協力依頼を受けた郡山市男女共同参画センターや郡山市内の女性団体が連携し、5月以降は3団体が日替わりで常駐して、様々な形で女性たちの支援を行った。こうした連携には、日頃から築いていたネットワークが活かされ、各団体が強みやノウハウを発揮し、多様な活動につながった。

女性専用スペースでは、避難所で生活する女性たちの安全と安心の確保と、避難している女性と地元（郡山市）の女性との交流を大きな目的として、①安心してくつろげる場の提供、②相談窓口の情報提供や防犯ブザーの配布、③女性のための物資等の提供、④ストレス解消のための楽しめる場として、喫茶コーナーや料理会・手芸教室等の開催、⑤弁護士相談やマッサージ等のボランティアへの場所の提供等が行われた。避難者への周知には、案内用ポスターを女性トイレの全個室に貼ったり、チラシ・カードの配布等も行われた。

女性専用スペースは同年8月末に避難所が閉鎖されるまで、毎日9時～21時まで開設され、一日平均50～100名が利用した。スタッフとのおしゃべりなどのほか、着替え、授乳、ドライヤーを使う、食器や野菜を洗う、針仕事、昼寝、読書等、利用方法は様々であった。



女性専用スペースを案内するポスター・チラシ